



'93 Hiroshima Flower Festival にて

一九九〇年、私は外国研究生という試験をパスした。ベトナムで、この試験は、大学の若い教師、科学院の研究生にとって一番難しいものである。以前、政府はほとんどの研究生を、旧ソ連と東欧諸国に送っていた。しかし最近では、上の各国の政治情況は大きく変化した。さらに我が国はドイモイ（刷新）政策を行い、越日關係も改善された。だから私は、日本政府の奨学生のための願書を出し、これが認められた。

私は、多くのベトナム人は、日本について考え、話す前に、まず、やはり HIROSHIMA について関心を持っていた。だから私は、日本政府の奨学生のための願書を出し、これが認められた。これはなぜだろうか。

私は他の留学生といっしょに平和公園に行き、原爆資料館を見学し、原爆ドームを見て、彼らと共に世界の平和を祈願した。ここに来た人々は誰もが共感し、平和を願うだろう。

私は原爆による恐ろしい破壊の情況を見た時、戦争時期の故郷の情況を思

べトナム人は、長い間、大変悲惨な戦争に耐えてきたので、他の各民族の戦争による悲惨さに深く共感していた。だから、私たちは世界初の原子爆弾投下という運命の時を迎えた HIROSHIMA について大変関心を持つていた。

私は歴史学の講師があるので、ベトナム全国の歴史と文化の遺跡を、学生と見物するという機会を持つていた。ベトナムでは、「戦争の罪悪についての資料館」がある。これはホー・チ・ミン市、ダナン市、クアン・ガイ省、ハノイ市にある。しかし、ベトナムの経済的困難と技術力の低さによって、資料館の建設とそこに保存されている資料は十分なものではない。私は原爆資料館を見物した時に色々なことを学んだため、ベトナムの「戦争の罪悪についての資料館」の発展に貢献したいと思つてゐる。

私は日本史の教科書で、戦争直後の破壊された日本を痛ましく描写したページを読んだ時、本当に感動した。その時期の日本と現在の日本を比べると、私たちは日本のすばらしい高度發

私の心に平和都市 HIROSHIMA

文学部東洋史研究室研究生
グエン・ルック・ティエン

シンチャオ
Xin chāo!

プロフィール

私は、ベトナムのクアン・ビン省で生まれ、ピン大学歴史学部を卒業し、ハノイ大学の研究生を経て、クイ・ニョン大学の講師に就任しました。一九九二年四月、日本政府留学生として来日しました。

私は、原爆によって創造された日本人に敬服する。特に、原爆に破壊された都市から、中国地方の行政、経済文化の中でも、日本戦後発展のシンボルであると思う。さらに、日本帝国の軍都から平和都市になった HIROSHIMA は、日本の民主主義と平和のシンボルであると考へている。

広島大学は、HIROSHIMA の回復と建設に大きく貢献した一方、HIROSHIMA は、広島大学を魅力のあるものにし有名にした。広島大学の国際化が進み、留学生が増えるのは幸運にも私は、愛する HIROSHIMA にいる。そして、私も広島市民の生活、平和を守る運動、文化遺産の維持について理解している。私が好きな広島は洋史研究室の先生方から歴史を学んでいた。そして、私も広島市民の生活、平和を守る運動、文化遺産の維持について理解している。私が好きな広島は HIROSHIMA である。

現在、冷戦は終わったが、平和はまだ世界の各民族のものになつていない。まだ、カンボジア、ボスニア、ソマリア、モザンビークの内戦、インド、スリランカの宗教暴動、南アフリカの人種対立は起こっている。しかし、各国民衆は戦争ではなく、平和を必要としていると信じる。それ故、HIROSHIMA からの平和の声が、各民族に伝え続けられることを期待している。